

足羽山（福井市）でヨコエビの新種（アスワメクラヨコエビ）を発見！

論文掲載

【本研究成果のポイント】

- 地下水棲ヨコエビの1種をアスワメクラヨコエビ（学名：*Pseudocrangonyx asuwaensis*）として発表した。
- 日本列島の地下環境における生物多様性の高さを示すひとつの成果である。

【概要および背景】

平成29年11月に七ツ尾口坑道（福井県福井市）で採集されたメクラヨコエビの一種について、広島大学大学院人間社会科学研究科の富川 光教授の研究室と、京都大学大学院理学研究科の中野隆文准教授の研究室で形態ならびにDNAに基づいた解析が行われた結果、新種であることが確かめられた。この成果は、ニュージーランドの動物分類学の学術誌 *Zootaxa* に、令和5年6月12日に論文が掲載され、新種の正式な発表となった。

◆新種のヨコエビについて

名 称：アスワメクラヨコエビ（*Pseudocrangonyx asuwaensis*）

分 類：節足動物門甲殻亜門軟甲綱ヨコエビ目メクラヨコエビ科メクラヨコエビ属

分 布：福井市足羽山（今のところ、足羽山固有種）

発見者：梅村 信哉（福井市学芸員）、吉澤 康暢（福井市自然史博物館元特別館長）

特徴体：色は半透明の白色。目は退化。

体 長：4.0～8.9 mm

生 態：七ツ尾口坑道では1年中見られる。令和3年8月と同4年4月に卵を抱えた個体を観察しており、1個体が抱える卵はそれぞれ2個、3個だった。

- メクラヨコエビ属は地下水性で、従来41種類が見つかった。分布の中心は東アジアで、日本、朝鮮半島、中国、極東ロシアに分布している。日本では10種が見つかった。アスワメクラヨコエビは世界では42種目、日本で11種目のメクラヨコエビ属の種となる。
- 触角の長さ、触角のつけ根部分や尾の形態、口器の毛の数やそれを構成する部位の節の長さの関係が近縁種と違う。
- 平成29年11月以降、当館では坑道内で本種の生態観察を行い、令和3年8月と同4年4月に本種の抱卵個体を観察し、映像資料を残している。これは、本種の繁殖生態を解明する上で非常に貴重な記録である。

【今後の展開】

- セツ尾口坑道以外でも、足羽山でメクラヨコエビは見つかっており、これらのサンプルは広島大学の富川教授が解析を担当する。
- 本種の坑道内での観察を続け、食性や繁殖期に関する知見を蓄積していく。抱卵個体を採集した際に卵の人工孵化を試みたが成功しておらず、室内の飼育観察も併用して本種の生態に関する知見を蓄積していく。
- アスワメクラヨコエビは福井県内の他の場所にも生息していると思われる。足羽山周辺を中心に、福井県内でメクラヨコエビを探し、見つかり次第、富川教授にアスワメクラヨコエビとの関係について解析をお願いする。アスワメクラヨコエビが足羽山固有種なのかを探りたい。



写真：アスワメクラヨコエビ（左）とその抱卵個体（右）

【論文情報】

論文名：A new species of the genus *Pseudocrangonyx* (Crustacea: Amphipoda: Pseudocrangonyctidae) from subterranean waters of Japan

著者：新谷亜季（広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程前期（研究当時））、梅村 信哉（福井市自然史博物館学芸員）、中野 隆文（京都大学大学院理学研究科准教授）、富川 光（広島大学大学院人間社会科学研究科教授）

掲載雑誌：Zootaxa DOI：10.11646/zootaxa.5301.3.4